

第35号
令和8年1月23日

静岡みなと通信



浜名湖全景（提供：浜松市）

目 次

静岡みなと通信「第35号」発行に寄せて（浜松市長）	1
静岡県港湾振興会の活動報告	2
ピックアップ～今後の気になる話題～	2
清水港江尻フェリーターミナル供用開始	3
みなとニュース	5
みなと自慢（下田港）	11
港こぼれ話	13
港湾関係行事予定	15



あじさいから覗く下田（提供：下田市）

静岡みなと通信「第35号」発行に寄せて



静岡県港湾振興会評議員
浜松市長 中野 祐介



周辺を海に囲われたわが国には、おおよそ1,000の港が存在しており、輸入物資の9割以上が港を介して国内に流通しております。また、災害時において、海路は陸路に代わる輸送路となり、私たちの生活を維持するために、重要な役割を担っております。

県西部地域の拠点港である浜名港は、浜名湖の入口に位置する遠州灘に面した唯一の港湾です。浜名港の利用船舶の多くは漁船で、小型定置網漁業や遠州灘におけるシラス、トラフグ漁などの沿岸漁業が盛んです。港内では、海苔、牡蠣等の養殖が盛んであり、港湾区域内にある舞阪漁港とともに重要な水産基地となっております。また、浜名港湾内は、釣り、たきや漁等の観光漁業を通じて多くの人々から海洋レジャーの場として利用されています。

浜名港海岸を含む浜松市域の沿岸部では、津波から市民の命と暮らしを守るために防潮堤が令和元年度までに整備されました。現在、浜名港湾内の整備事業として、老朽化が著しい港口東導流堤の整備や、安全な航行のための航路浚渫などが実施されています。

私たち「静岡県港湾振興会」は、港湾整備を進めるとともに、本誌や本会の活動を通じて港湾整備の必要性をご理解いただけるよう本年も積極的に活動してまいります。

皆様方におかれましては、今後の港湾整備や利用促進に一層のご理解、ご支援を賜れば幸いに存じます。



浜名湖（弁天島を南から撮影）



舞阪漁港



シラス競り市（舞阪漁港）



防潮堤

静岡県港湾振興会の活動報告

令和7年度静岡県港湾整備促進大会を開催

令和7年7月28日（月）、ホテルグランヒルズ静岡において、多くの港湾関係者や行政関係者等の御参加をいただき、港湾整備促進大会を開催しました。

難波会長（静岡市長）の挨拶の後、中田県議会副議長、塚本副知事をはじめ来賓の方々から御挨拶をいただきました。

御出席をいただいた小長井市長（富士市）、下村市長（御前崎市）、賴重市長（沼津市）、松木市長（下田市）、深澤町長（松崎町）、星野町長（西伊豆町）から「地域の声」と題して意見発表をいただき、大会の最後には、「静岡県の港湾整備の促進に関する要望」を満場一致で決議し、関係各方面に対して運動を展開していくこととしました。

また、大会に先立ち、徳島大学環境防災研究センター 中西 敬客員教授を講師にお迎えし、「港湾とブルーカーボン生態系」と題して、御講演をいただきました。



講演会の様子



難波会長（静岡市長）あいさつ



下村副会長（御前崎市長）による決議文の読み上げ

県外港湾視察研修を実施

静岡県港湾振興会では、令和7年11月18日（火）から20日（木）の3日間、会員団体等から15名が参加し、令和6年1月1日に発生した能登半島地震について、特に被災の大きい輪島港、黒島漁港をはじめ、災害復旧拠点となった七尾港、金沢港を視察しました。

日本海側に面した輪島港や黒島漁港では地盤の隆起等からの復旧状況を、和倉港や七尾港では地盤沈下による復旧状況を国、県、市それぞれの担当者から丁寧な説明をいただきました。

参加者からは、「民間管理護岸の公有化、港湾区域内の護岸復旧を権限代行で実施する等が特徴的であった」「岸壁整備において液状化対策や耐震強化の整備が非常に重要であり、被災者支援・支援物資など早期に向けた動き出しが可能となることを実感した」「地盤隆起の恐ろしさを確認でき有益だった」など、伊豆半島を抱える本県での発災時の想像力を高め、災害対応能力を養う絶好の機会となり、大変有意義な研修となりました。



ピックアップ～気になる今後の話題～

◆田子の浦港60周年記念イベントの開催について

田子の浦港開港60周年を記念し、令和8年11月14日（土）午前に田子の浦港富士埠頭にて記念式典を開催する予定です。

特別寄港として、海技教育機構が所有する練習船「海王丸」を誘致し、14日（土）午後から一般公開を予定しております。

また、15日（日）には田子の浦港ポートフェスタ、さらに11日（水）から25日（水）までイルミネーション等を開催する予定です。詳細は、令和8年2月以降に富士市ホームページ等にて、お知らせする予定です。

◆クルーズ船について

令和8年の県内港湾のクルーズ船寄港数は100回以上を見込み、令和5年から3年連続で過去最高を更新しています。既に寄港実績のある客船のリピートはもちろん、ザ・リッツ・カールトン社が手がける「ルミナーラ」や、ドイツ・TUIクルーズ社の「マイン・シフ6」などの県内初寄港が予定されており、更なる盛り上がりが期待されます。

◆新興津・海釣り公園の暫定供用

清水港新興津地区の国道1号バイパス海側エリアでは、県事業によるなぎさ再生（人工海浜整備）、緑地の整備と、市事業による海づり公園の整備が進められています。

このうち、令和8年には、4月に海づり公園の桟橋部分、その後、緑地の芝生広場の一部と命山の供用開始が予定されています。

清水港江尻フェリーターミナルの供用開始

清水港江尻フェリーターミナルの供用を開始



静岡市清水港と伊豆市土肥港をつなぐ駿河湾フェリーは、日の出埠頭を乗降場としていましたが、JR 清水駅東口再開発事業との連携や、乗降客の利便性向上のため、駅から徒歩3分の江尻地区にフェリーターミナルを新設、移転しました。

新フェリーターミナルの供用開始となった令和7年4月18日には、記念式典を開催しています。

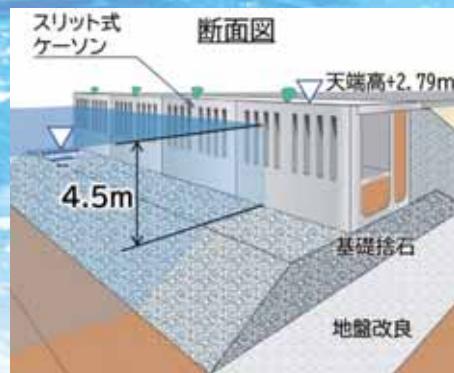
式典には、主催者である静岡県副知事、(一社) ふじさん駿河湾フェリー理事長に加え、県議会議員、関係する市町の首長・議員、関係官署、港内や近隣の関係企業・団体の来賓を含めた約100人が参加しました。式典の締めくくりのテープカットに続き、一般のお客様のフェリーへの乗船が開始となり、多くの関係者と地元園児に見送られ、駿河湾フェリーは土肥港へ出港しました。



フェリーターミナルの整備

フェリーターミナル移設のために、県では水深 -4.5 m、延長 131.2m の岸壁及び 0.9ha の埠頭用地を整備しました。

なお、本岸壁は地震発生時においては発災直後からの避難者の受け入れや、緊急物資等の輸送の拠点とするために、通常の岸壁よりも耐震性を強化した「耐震強化岸壁」として整備し、港内の静穏を確保するためスリット式ケーソン構造を採用しています。



整備の効果

1 鉄道と駿河湾フェリーの接続性の強化

- ▶ 駿河湾フェリー利用者の利便性が大幅に向上
- ▶ 周辺施設の再開発による賑わいの創出



2 大規模災害時の物資輸送拠点としての活用

- ▶ 静岡県（清水港・伊豆半島）の防災力が向上

3 日の出岸壁では大型クルーズ船の2隻同時接岸が可能に

- ▶ クルーズ船の受入環境が大幅に改善



みなとニュース



港湾脱炭素化推進計画の策定に向けて

本県が「2050年温室効果ガス排出量実質ゼロ」を目指すなかで、港湾分野における「カーボンニュートラルポートの形成」が主要な施策の一つとなっています。

そのため、国内外の多くの貨物を取り扱う国際拠点港湾の清水港、重要港湾の御前崎港及び田子の浦港では、官民一体となって議論を行い、温室効果ガスの削減目標や削減に向けた具体的な取組を定めた計画を策定することとしています。これまでに清水港及び御前崎港の「港湾脱炭素化推進計画」を策定・公表しており、現在、田子の浦港の計画の策定を進めています。

田子の浦港では、令和6年9月に国や県、民間企業など27団体からなる「田子の浦港港湾脱炭素化推進協議会」を設立し、これまで合計3回の協議会を開催し、計画の素案を作成しました。今後、令和7年度内の計画策定に向け、国との協議を進めていきます。

静岡県内の港が、脱炭素社会への貢献に加え、荷主や船社から選ばれる競争力のある港となるよう、官民一丸となって、カーボンニュートラルポートの形成に取り組んでいきます。



田子の浦港航空写真



田子の浦港港湾脱炭素化推進協議会の状況

松崎新港防波堤での海釣りトライアル事業について

令和7年5月31日(土)、6月1日(日)・7月5日(土)、6日(日)の計4日間にわたり、松崎新港防波堤にて、事前予約手続きの簡素化と予約状況の明瞭化を図る機能を持つアプリを活用した海釣りトライアル事業が実施されました。

今回開放した場所は無断侵入を防ぐ目的から長らく立入禁止となっていた港湾施設ですが、安全性を確保し、事業を実現させました。

今回のトライアル事業では、地元グルメと宿泊がセットになった体験型プランも展開され、松崎町の名物・桜葉と地鯛を使った「極旨堤防飯」や、釣った魚を夕食で楽しめる「極楽釣りステイ」が用意され、松崎ならではの魅力を体感できるものとなりました。

累計173人が釣りを楽しみ、皆様々な種類の釣果を獲得していました。

今後は、本格導入に向けた関係者調整を行い、地域が主体となった港における安心安全な港の賑わいづくりの可能性を探っていきます。



トライアル事業の様子



実際の釣果

クルーズ船2隻同時寄港について

最近のクルーズ船の清水港寄港は、官民で構成された清水港客船誘致委員会を中心とした長年の誘致活動の成果により、令和6年には清水港で過去最高の87回の寄港を記録し、令和7年は105回の寄港となりました。

令和7年4月には駿河湾フェリーが日の出埠頭から江尻埠頭に移転し、日の出埠頭ではクルーズ船の2隻同時寄港受入れが本格的に開始されました。令和7年は6回の2隻同時寄港があり、特に5月と7月には300m近くある大型クルーズ船2隻を日の出埠頭で見ることができました。

寄港した乗客は、世界遺産の構成資産である三保松原や久能山東照宮など、静岡を代表する観光地を訪れました。また、岸壁で開催されたマルシェや近隣のショッピングモール等で買い物を楽しむ姿も多く見られました。

令和8年も、令和7年を超える数の入港予約が入っています。ぜひ港に足を運んでいただき、様々なクルーズ船を近くでご覧ください。



令和7年5月25日 手前：セレブリティ・ミレニアム
奥：ノルウェージャン・スピリット



令和7年7月26日 手前：ダイヤモンド・プリンセス
奥：セレブリティ・ミレニアム

県内港湾におけるポートセールス活動

県では清水港、田子の浦港、御前崎港で官民で連携したポートセールス活動に取り組んでいます。

清水港では利用拡大を目的として、背後圏である甲信地区（令和7年8月）や首都圏（令和7年10月）で荷主企業等を対象としたセミナーの開催や、港湾施設等の見学を通じて港の魅力を体感して頂く視察会などを実施し、参加された方から大変好評の声を頂いています。

田子の浦港についても、視察会などを実施し、港湾利用の促進に努めています。

また、御前崎港では、県内西部地区でのセミナーや視察会開催のほか、6月には新造された自動車運搬船の命名式が盛大に執り行われました。

今後も県内港湾の取扱貨物量と航路拡大を目指し、官民一体となったセールス活動を取り組んでまいります。



清水港セミナー（都内）



清水港物流観察会



田子の浦港観察会



自動車運搬船新造船命名式（御前崎港）

おどらっかさい 第24回踊夏祭・第19回大井川港トライアスロン大会

令和7年7月20日(日)、焼津市大井川港特設会場で、「第24回踊夏祭」と、同日開催の「第19回大井川港トライアスロン大会」が開催され、市内外からの12,000人の来場者で賑わいました。

踊夏祭は、旧大井川町の時代から毎年開催されている一大イベントで、「踊りがまちを揺らす、踊りがまちを変える」を合言葉に、観光の目玉、三世代交流の場として「市民総参加のイベント」を市民の手作りで行うものです。

ステージでは、各チームが躍動感ある踊りを披露しました。その他、太鼓保存会の演奏や地元高校生のステージ、さらに今年は初めて会場の中心に提灯やぐらが組まれ、観客も一緒になった盆踊りが行われました。そしてフィナーレにはスターマイン花火が夜空を彩りました。

また、「大井川港トライアスロン大会」では、大井川港、大井川河川敷マラソンコースを活用し、「スイム・バイク・ラン」で239名の選手がタイムを競いました。



ステージでの踊り



提灯やぐらと打上げ花火

浜名湖ミナトリング 2025

令和7年7月27日(日)に浜名湖を満喫できるイベント「浜名湖ミナトリング 2025」が開催されました。

浜名湖ミナトリングは、浜名湖周辺で育まれた歴史・文化や産業、レジャー、食材などを感じ、楽しんでもらうことで、浜名港を賑わいと魅力発信の拠点としていくための取組として平成29年度に開始されました。コロナ禍による中止を挟んで、今年で6回目の開催となりました。

小型漁船やプレジャーボートの乗船体験、はたらく船や車の展示などのイベントをはじめ、鰻の蒲焼き、生しらすの天ぷらなど、浜名湖の食を味わえるグルメも用意されました。

来場者は約5,500人に上り、多くの方に海や船、浜名湖、浜名港などに代表される地域資源の魅力を満喫していただき、大変な賑わいとなりました。



はたらく車の展示



乗船体験

松崎港クルーズ船初寄港について

令和7年8月2日（土）、豪華クルーズ客船「飛鳥Ⅱ」が松崎港に初寄港し、地元の方々が長く待ち望んでいた瞬間が実現しました。全長240メートルを超える白い船体が沖に姿を現すと、多くの地元住民が詰めかけ、感慨深げにその雄姿を見守りました。

地元では歓迎事業として、サザエ狩り体験や宝探し、バナナボートなど多彩なイベントを企画しました。乗客は真夏の陽光の下、松崎町の美しい海水浴場で海遊びを楽しんだり、地元の観光地を巡ったりし、町を満喫しました。

さらに寄港中には、台風の影響で進路を変更した「飛鳥Ⅲ」が松崎沖に現れるという思わぬ出来事もあり、2隻を同時に見ることができる貴重な機会となりました。

地域の皆さんにとっても忘れられない1日となり、今回の寄港を契機に、観光振興や地域活性化への期待が高まっています。

また、このおもてなしが評価され、日本外航客船協会が主催する「クルーズ・オブ・ザ・イヤー2025」において、飛鳥Ⅱ歓迎イベント実行委員会と静岡県、郵船クルーズ（株）が特別賞を受賞しました。



飛鳥Ⅱ（手前）と飛鳥Ⅲ



飛鳥Ⅱ歓迎の様子

伊豆半島の津波対策

震源域に近く津波の到達時間が早い本県では、沿岸域に人口や資産が集中し、甚大な被害が想定されています。このような課題の解決策として、ハード対策とソフト対策を組み合わせた多重防御により、できる限り被害を最小化することを目指した津波対策を「静岡方式」と称し、関係機関・地域住民と話し合い、市と協働で各地区の津波対策方針の策定を進めています。

伊豆半島沿岸では、各地区協議会での検討の結果、令和6年度末までに50地区のうち41地区において、避難等のソフト対策と防潮堤等のハード対策（整備せずも含む）が「津波対策の方針」として策定されています。

令和7年度は、9月に津波対策静岡方式推進検討会が開催され、沼津市井田地区の「津波対策の方針」がとりまとめられました。井田地区では平成28年から8回の地区協議会を開催し検討が重ねられた結果、防潮堤を超える津波に備え住民・観光客の避難を後押しするソフト対策の推進と、ハード対策としては避難時間を最大限確保し被害を最小化する防潮堤整備（レベル1津波に対応する嵩上げ）の方針が示されました。

残る8地区についても令和7年度内の方針決定を目指し、引き続き地元との調整を進めています。



井田地区での地区協議会の様子

第9回清水みなとまちづくりシンポジウム

一般社団法人清水みなとまちづくり公民連携協議会（以下、協議会）は、静岡県、静岡市、企業等19者で構成され、清水港及びその周辺において、“みなど”と“まち”を一つの資産として最大限に活かす「みなとまちづくり」を公民連携により推進することを目的に活動しています。

その活動の一環として、みなとまちづくりに係る情報発信や地元の意見を“みなとまちづくり”に反映するためにシンポジウムを定期的に開催しており、令和7年9月21日（日）には清水ふれあいホールで「第9回清水みなとまちづくりシンポジウム」が開催されました。

当シンポジウムでは、協議会の前田会長より、貝島地区のみなとまちづくりの将来像を示す「貝島・塚間地区ガイドプラン（案）」の中間報告、基調講演として呉市企画部長の倉員氏をお招きし、「海洋文化都市くれ」の実現に向け呉市と広島大学が連携して取り組む「呉市・広島大学 Town & Gown 構想」が紹介されました。最後の質疑応答では、来場者と地区の将来や今後のあり方等について活発な意見交換が行われました。



写真提供：一般社団法人清水みなとまちづくり公民連携協議会

貝島・塚間地区ガイドプラン（中間案）について

協議会は、令和元年7月に清水港及びその周辺の概ね20年内のあるべき姿となすべき計画を提案したグランドデザインを公表し、その中で、みなとまちづくりを先導する地区をリーディングプロジェクトに位置づけています。

このリーディングプロジェクトの1つである貝島・塚間地区について、関係者の情報や意見をもとに、地区の将来像を1枚の絵にまとめた「貝島・塚間地区ガイドプラン」の策定を進めており、「第9回清水みなとまちづくりシンポジウム」では中間案が公表されました。

中間案では、地区のうち県による埋め立てが進む埋立地及び中部電力所有の低未利用地を対象に、県が策定した清水港長期構想及び港湾計画に基づく「海洋研究イノベーションゾーン」として、産学官連携による海洋研究・開発拠点の形成に向けた段階的な施設整備や土地利活用の進展等が示されました。

今後は、広く意見を募集し、地域の声を踏まえた上で、令和7年度末に最終版を公表する予定です。



写真提供：一般社団法人清水みなとまちづくり公民連携協議会

富士見地区 新チップアンローダー1号機

清水港富士見埠頭には、製紙原料である木材チップの陸揚げのため、荷役機械“チップアンローダー”が2基設置されています。

そのうちの1号機は設置から30年以上が経過し、老朽化により不具合が発生するようになったため、新1号機の製作・据付工事を令和5年6月に契約し、現在は富士見岸壁上で調整、試運転を進めています。今後、令和8年3月には完成する予定です。なお、旧1号機は令和6年3月に解体撤去工事が完了しています。

新1号機は愛媛県の工場で製作、台船に載せられて令和7年12月17日(水)に清水港に到着し、19日～20日にかけて起重機船で吊り上げられ岸壁上に設置されました。

取扱能力は旧1号機と変わりませんが、新1号機には地震への備えとして免振装置がついており、安全で円滑な荷役に活躍することが期待されます。

新1号機の諸元

- ・形 式：水平引込式（ダブルリンク式）
- ・能 力：1時間当たり400トン
- ・重 量：786トン
- ・高 さ：最大63.5m（レール面から）
- ・費 用：20億3千万円
- ・その他：免振装置付き



チップアンローダー据付け工事中

清水港 新興津緑地と市街地を結ぶ歩道橋を整備しています

清水港新興津地区の海岸部では、国道バイパスや港湾整備によって失われた人と海との繋がりを回復させる緑地広場や人工海浜を整備しています。

現在、市街地から緑地広場等へのアクセスのために、国道1号バイパスをまたぐ歩道橋を整備しており、歩道橋は緑地内で整備中の命山とともに、想定される最大クラスの津波から緑地等の利用者の命を守る緊急避難場所としての役割も担います。

歩道橋の橋桁の製作、架設は、国土交通省静岡国道事務所に委託して施工していただいている、令和7年11月5日(水)には国道1号バイパスを夜間通行止めとし、長さ28.45m、重量51.2トン（吊り足場等を含めると62.6トン）の鋼製の橋桁を架ける工事が一晩で行われました。

今後は、令和8年の早期供用開始を目指し、清水港管理局で高欄の整備が進められます。

また、地元興津小学校、中学校や地元住民の皆様から歩道橋の愛称を募り、興津自治会での選定を経て、令和8年3月末の地元住民向けの現場見学会の際に発表する予定です。



橋桁の架設工事中



完成予想パース



みなと“自慢”



下田市 建設課

～多種多様な催し～

1 開国しもだ

嘉永7年（1854年）3月、「日米和親条約」の締結により、下田と函館が日本で初めての開港場となりました。米露を中心とした諸外国との交流が行われ、下田は歴史の表舞台に立つことになりました。

2024年は、開港170周年の節目の年となりました。



下田港

2 海上花火大会



海上花火大会

黒船の来航と開港を記念した下田最大の祭典である黒船祭が、5月の第3週の金、土、日の3日間行われます。米海軍、海上自衛隊の音楽隊が出演するパレードやコンサートなど、国際色豊かなイベントが行われ、下田を大いに盛り上げてくれます。初日の夜には、下田港を舞台にした花火大会が開催されます。

打上げ場所が複数あり、間断なく花火が打上げられ、みなとまちの夜空を彩ります。

3 アクアスロン

2002年にオープンした「まどが浜海遊公園」は下田港に面した広い公園で、国道135号沿いにあり、ドライブの合間に一休みするにも最適なスポットです。

令和7年6月15日（日）には「第3回黒船アクアスロン・マラソン」が開催され、全国からエントリーした117名の選手が参加し、アクアスロンでは下田港内を泳ぎ、まどが浜海遊公園を走りました。

マラソンでは、ファミリーデ部分も行われ、親子での参加も多く、会場は温かい声援に包まれました。

大会は下田市体育協会やライフセービングクラブなど多くの団体の協力により安全に運営され、閉会式・表彰式では参加者の健闘が称えられました。地域の企業8社の協賛もあり、地元と一体となつたイベントとして盛況のうちに幕を閉じました。



アクアスロン

4 マリンフェスタ下田

毎年7月には、下田港内にて「マリンフェスタ下田」が行われています。

Sea 級グルメを含む多くの露店が並び、100kg を超える氷を彫り上げる彫刻の実演や、カジキの解体ショーなど多くのイベントがあります。



マリンフェスタ下田

5 国際カジキ釣り大会

「マリンフェスタ下田」の開催期間中に行われる「国際カジキ釣り大会」は、日本で最大規模の釣り団体が催すイベントの中でも最大の大会です。毎年 100 を超えるチームが全国各地から集まり、技術を競い合います。



国際カジキ釣り大会

6 皆さんへのひとこと

下田市は、上記以外にも四季を通して様々なイベントが開催されております。
是非、一度お越しになってみてください。



港と出会って～港との思い出～

元静岡県清水港管理局技監兼企画整備課長

望月 敏弘



1. はじめに

「港こぼれ話」の寄稿依頼を受け、これと言って絞れるテーマがないので、港との関りを振り返ってみることとしました。私の思い出話にお付き合いください。私は、農業高校卒業後の昭和53年4月、静岡県に入庁。最初の勤務地は静岡東土木事務所でした。港との出会いは、3回目の勤務地である清水港管理局で、以降、42年間の公務員人生の内、2／3の28年を港湾関係業務に携わってきました。

2. 最初の港湾・清水港管理局

昭和59年に配属された清水港管理局は、巴川河口左岸で、事務所後ろには清水港線が走っていた場所にありました。施設課に配属された私は、初めて聞く用語などに戸惑いながら、上屋の修繕など港の維持管理業務を行いました。

当時の清水港は、昭和57年に袖師第一ふ頭国際コンテナターミナルが供用開始した直後で、私はコンテナクレーンの基礎延伸工事やクレーン関連の部品を格納する倉庫の建築工事などを担当しました。基礎工事では、岸壁基礎捨石を打ち抜くため、ドーナツオーガ工法にて鋼管杭を打設。数本の杭で偏心量が規格値を超えてしまったこともあります。当時、袖師第一ふ頭には、2機目のコンテナクレーンを整備中で、台船で運搬されたコンテナクレーンを岸壁に引き込む作業を見学、クレーンの脚が岸壁に乗った瞬間、台船が浮きコンテナクレーンが走り出してしまったハプニングもありましたが、港の工事の大きさに驚きました。

初めての港湾？工事は、泊地浚渫工事で余掘りを含めた図面の書き方、積算方法など、先輩から教わりながら工事を発注し、浚渫工事自体は問題なかったのですが、浚渫した箇所の岸壁（富士見1,2号岸壁）が海側に倒れてしまい、急遽、岸壁背後の土砂撤去と矢板式岸壁の控え工の確認をすることに。使用しているタイロープの腐食が原因だったと記憶しています。

3. 渔港との出会い

初めての漁港は、県庁漁港整備課（建設係）で県庁勤務も初めて。その後2回漁港課勤務を経験しました。面白いことに、配属されるごとに部の名称が異なり、①農業水産部、②林業・水産部、③農林水産部でした。先輩から引き継いだ業務に、ベーシックでのプログラムによる港湾漁港の省略単価の作成があり、パソコンに無知な私は、単価歩掛が変わるたびに四苦八苦でした。漁港課では水産庁への説明、協議も多かったのですが待ち時間も多かったように記憶しています。計画課長？の後ろの窓越しに東京タワーの明りが点いたこともしばしば。

4. 忙しかった下田土木事務所（港湾課）

平成2年に配属された下田土木港湾課では、多くの港湾関係工事を経験させてもらいました。

(1) 下田港鵜島岸壁改良事業

海上保安庁の巡視船と神新汽船が利用する岸壁の改良工事で、利用船舶の移動から調整から大変でした。巡視船の移動先は漁協市場横であるが、利用している石材運搬船と漁協との調整が難航し精神的に参ったこともありました。工事では岸壁基礎部の地盤改良、サンドコンパクションによる改良でした。コンパクション船作業時の振動が凄く、付近の食堂から苦情があり施工会社さんと謝りいくことも。地盤改良が終わりチェックボーリングを行ったのですが、1本のデータで所定の深度まで砂層が確認なく岩盤が出てしまったのです。位置をずらし追加ボーリングで確認することが出来できホッとしてました。原因是ケーシングパイプが岩にあたりズレてしまったようでした。サンドコンパクションによる地盤改良は清水港でも施工していて、改良率などで会計検査の対象となっていました。





(2) 手石港港湾防災事業

手石港では、弓ヶ浜や青野川沿いの津波堤防と船溜まり部の水門工事を実施。水門形式はトラベリング式ローラーゲート。漁船が釣竿を立てて航行する箇所であるため、通常時、航行部は何もない状態である。躯体工事の基礎杭はφ1000mmの鋼管杭（直杭と斜杭）をディーゼルハンマーにて施工しましたが、支持地盤の状況により数本の杭で高止まりが生じ鋼管杭の切断を余儀なくされました。下田港同様、伊豆海岸線の岩盤は複雑です。ここでも、杭打ちによる振動により、周辺の建物で浴室タイルのひび割れや対岸の建物のなまこ壁に被害が発生してしまいました。

この水門は、構造（動作）が複雑で、①水門軸体に格納してある梁を対岸まで伸ばし、②その上に扉体を抱えた台車が走行、③台車が所定位置に来たら扉体を降下し、水門閉鎖完了。ですが、各動作をリミットスイッチにより検出するのですが、鉄物は温度や日光の当たり方により伸びたり縮んだりで、リミットスイッチの検出の違いにより停止が多発する状態でした。調整により改善されましたが今はどうなのでしょうか。



(3) 妻良漁港修築事業

妻良漁港では昭和60年の台風による災害復旧に引き続き修築事業を実施していました。南・北防波堤の改良工事として、上部工の嵩上げと80t(A1.72型)六脚



ブロックの設置工事を実施。ブロックの大きさに圧倒されました。北防波堤航路側の堤頭部のブロックは標準部の1.5倍の重量が必要だが80tのブロックが最大のブロックであるため、高比重Co(2.7t/m³)を使用。計算の結果、ブロックは1ランク下のA1.62型での施工となりました。航路部には、航路標識の指向灯が設置されていて南防波堤堤頭部に消波ブロックを巻き込むと航路が確保できなくなってしまうため、ケーソン腹付けによる堤頭部補強を行いましたが、平成24年の台風でケーソンが転倒。被災原因は基礎工洗堀だったようで、被覆ブロック重量が適正だったかなど悔やまれます。

(4) 下田港港湾災害復旧

平成3年9月、下田市の稲梓地区で低気圧による局地的な豪雨で土砂崩れが発生。この災害により稻生沢川に土砂が流入し、下田港泊地で埋塞災害と流木災害が発生しました。埋塞災害は河川との重複区間で発生。維持管理土量の算定に苦慮しました。日頃からの維持管理データが大切です。流木災害も初めての経験でした。泊地に溜まっている流木、ごみを引き上げては数量の検収を行いました。流木の処理は、下田市の下水処理場建設予定地で焼却処分。今では考えられない作業です。

5. 2回目の清水港

～新興津コンテナターミナルの建設～

平成14年に配属となった2回目の清水港。メインは、平成8年度から始まった「新興津コンテナターミナル」の整備です。1年後にコンテナヤード2レーン、コンテナクレーン3基、受電設備等関連施設を完成させ供用開始すること。異動当時は岸壁ケーソンが海面に並び埋立が始まった状態で、1年で整備できるのか不安でしたが、ここから施設課が「ONE TEAM」で整備にあたりました。

ふ頭用地整備ではコンテナヤード2レーンまでの埋立は、規格外石材(5~200kg)による埋立です。ガット船により石材を投入。汚濁防止対策をしながら作業を行いました。埋立が完了した箇所からコンテナヤードの整備。路床材の敷均し、コンテナ用



コンクリート基礎工、トランスファークレーン走行路版(コンクリート版)、トレーラー走行路(半たわみ舗装)を順次施工してきました。

荷役機械整備では、コンテナクレーン3基、受変電設備、クレーン備品格納庫の整備を実施。直轄施工箇所のエプロン部の中には、クレーンレール、クレーン給電管路、船舶給水管等を施工するため、直轄工事との調整を行ながらの施工となりました。

コンテナクレーンの据付は、クレーンレールと係留装置が出来た状態で実施。電気設備も施工途中でした。クレーンの運搬据付は専用のフォーク船により施工。袖師ふ頭の時は台船での運搬であったため、すごい船が出来たものだと感動しました。(クレーンの設置状況は、清水港HPの映像に6



(供用開始4か月前の新興津ふ頭の状況)

号機の設置画像があります。)クレーンは岸壁上に座ったものの、直轄工事は施工中で、エプロン舗装等の施工に合わせてクレーンの移動が必要となりましたが、電気設備は施工中であったため、車両で引っ張っての移動を行いました。1,000tの重量のあるクレーンですが、簡単に動くものです。

コンテナクレーンは清水港みなし色彩計画により、青・白を基本とした塗装をするため、昼



間障害標識に代わる航空障害灯の設置が必要となります。免除基準は、設置構造物の高さが100m以上の場合、半径1kmの範囲に当該物件より高い山があればよいのですが、興津の山までは1.2kmあり免除対象外でした。東京航空局に中光度白色航空障害灯の協議を実施。移動クレーンへの設置実績が無いとのことでしたが、移動範囲を明確にすることで許可を頂きました。

コンテナターミナルは、平成15年6月に完成式典を行い、7月から供用開始しました。完成式典時に着いた船は、パルプ船だったと記憶しています。

また、コンテナクレーン稼働時に興津ふ頭及び興津地区内でフリッカー現象が発生していました。電圧フリッカーというもので、電気を大量、かつ変動を伴って使用することで電圧が繰り返し変化し、蛍光灯のチラつきなどが発生するのです。どの様な状況で発生するのか、クレーンを稼働させて確認したところ、主にクレーンの巻き上げ動作が重なるときに発生しました。対策として、興津ふ頭とは別の送電線(高圧6,600V)を設置しましたが、興津地区では解消されない状況で、次にフリッカー補償装置なるものを設置。クレーン稼働による電圧低下時に電圧を補う装置です。その他の対策として、巻き上げ動作が重ならないよう様な運転をターミナルにお願いしました。

現在は、特別高圧受電設備(77,000V)が整備されているため、コンテナクレーン6基体制でも問題ないようです。

コンテナヤード3~7レーンは、直轄工事の泊地浚渫土砂投入区域です。フロート付きのバックホウが作業しているエリアで底なし沼状態、立会も命がけでした。埋立土砂の圧密促進のため、ここに土木シートを展開、埋立土砂の沈下管理のための沈下版の設置、敷砂の撒き出し、バーチカルドレーン打込み、暗渠排水管の設置、載荷盛土の順に施工してきました。沈下量を計測し、沈下量の状況により載荷盛土を増やすなどの管理を行い、所定の沈下量等を確認できた箇所から載荷盛土を撤去し、路床部のセメント改良と、1,2レーンと同様のヤード整備を実施してきました。コンテナヤードの沈下は定期的に測定していましたが、現在はどの様な状況なのでしょうか。



6. おわりに

「港こぼれ話」として、港の思い出話を綴ってきましたが、苦労してきたことが思い出されます。私の仕事を引き継いだ方々にはご迷惑をお掛けしたと思います。記憶違いのところもあるかと思いますが、このような機会を与えていただき感謝します。現在、若干、港に関係した仕事をしていますので、今後もよろしくお願いします。

港湾関係行事予定 (令和8年2月1日～令和9年1月31日)

※日程は予定であり、諸事情により変更・中止となる場合があります。

日 稲	内 容
3月上旬	伊豆多賀わかめまつり（熱海市 長浜海浜公園）
4月26日（日）	さがら草競馬大会（牧之原市 相良海岸）
4月26日（日）・5月24日（日）	春季熱海上花火大会（熱海市 热海湾）
4月29日（水・祝）	第32回 大井川港朝市（焼津市 大井川港）
4月～5月（GW期間）・7月下旬～9月	体験企画「うなぎつかみ・かば焼き・さかなつかみ・しらす釜揚げ」（湖西市 海湖館）
4月下旬	御前崎シーサイドピクニック（御前崎市 マリンパーク御前崎）
5月3日（日・祝）～6月28日（日）	地引網体験（伊東市 伊東海岸） ※5月6月の毎週日曜日開催
5月16日（土）	黒船祭 海上花火大会（下田港）
5月上旬	春のあたみビール祭り（熱海市 渚親水公園）
5月中旬	黒船カップ（下田沖）
5月下旬	初島とごろ天まつり（熱海市 Shima Terrace初島）
5月	なぶら祭り（御前崎市 海鮮なぶら市場）
5月予定	ぬまづ港の街BAR（沼津市 沼津港ほか）
6月中旬	第4回黒船アクラスロン大会（下田市 下田港・まどが浜海遊公園内）
6月下旬	第4回下田市中高サーフィン大会（下田市 入田浜）
7月17日（金）	静波海岸海開き（牧之原市 静波海岸）
7月17日（金）	さがらサンビーチ海開き（牧之原市 相良海岸）
7月19日（日）	マリンスポーツフェスタ（御前崎市 牧之原市 御前崎マリーナ）
7月19日（日）	第25回 踊夏祭、第20回 大井川港トライアスロン大会（焼津市 大井川港）
7月20日（月・祝）・7月26日（日）・8月5日（水）・8月9日（日）・8月18日（火）・8月24日（月）	夏季熱海上花火大会（熱海市 热海湾）
7月23日（木）～7月26日（日）	国際カジキ釣り大会（下田沖）
7月24日（金）	堂ヶ島火祭り（西伊豆町 仁科漁港（堂ヶ島））
7月25日（土）・7月26日（日）	マリンフェスタ（下田市内）
7月31日（金）～8月2日（日）	第77回清水みなと祭り（静岡市 清水港）
7月上旬	CABO VIKING CUP（下田沖）
7月中旬	網代ベイフェスティバル（熱海市 網代港）
7月下旬	第57回海の祭典納涼花火大会（下田市 白浜大浜海岸）
7月下旬～8月下旬（6回）	熱海で遊ぼ 花火で遊ぼ（熱海市 渚親水公園） ※7・8月花火大会と同日開催
7月～8月	御前崎海水浴場海開き（御前崎市 マリンパーク御前崎）
8月2日（日）	宇佐美夏まつり海上花火大会（伊東市 宇佐美海岸）
8月4日（火）	第79回初島・熱海間団体競泳大会（熱海市 热海湾）
8月8日（土）	「灯籠の流れ」打上花火（伊東市 伊東海岸）
8月8日（土）	弓ヶ浜花火大会（南伊豆町 手石港）
8月9日（日）	「太鼓の響き」打上花火（伊東市 伊東海岸）
8月10日（月）	按針祭海の花火大会（伊東市 伊東海岸）
8月14日（金）	やんもの里花火大会（伊東市 八幡野港）
8月14日（金）	令和8年夏季納涼花火大会（下田市内）
8月18日（火）～8月20日（木）	土肥サマーフェスティバル（伊豆市 土肥港湾内）
8月22日（土）	伊東温泉箸まつり花火大会（伊東市 伊東海岸）
8月上旬	御前崎みなと夏祭り（御前崎市 マリンパーク御前崎）
8月中旬	伊豆多賀海上花火大会&ビールフェスティバル（熱海市 多賀湾）
8月中旬	伊豆多賀温泉百八体流灯祭&ビールフェスティバル（熱海市 多賀湾）
8月中旬	網代温泉海上花火大会（熱海市 網代湾）
8月	静岡県知事杯石廊崎レース（下田沖）
8月	Trans-Sagami Yacht Race（下田沖）
8月もしくは9月	さがら海上花火大会（牧之原市 相良海岸）
9月13日（日）・10月12日（月・祝）・10月25日（日）・11月8日（日）・11月23日（月・祝）	秋季熱海上花火大会（熱海市 热海湾）
9月上旬	第22回マスターズオープンサーフィン選手権大会2026（下田市 白浜）
9月中旬	BERTRAM CUP in SHIMODA（下田沖）
9月	しづなみマリンピック2026 ビーチクリーンカップ（牧之原市 静波海岸）
10月18日（日）	御前崎マリンパークマラソン（御前崎市 マリンパーク御前崎）
10月上旬	第37回 大井川港釣り大会（焼津市 大井川港）
10月上旬	夕映えの花火（西伊豆町 仁科漁港（堂ヶ島））
10月中旬	第26回清水港興津フェア（静岡市 興津国際交流センター）
11月11日（水）～11月25日（水）	田子の浦港イルミネーション（富士市 ふじのくに田子の浦みなど公園ほか）
11月14日（土）・11月15日（日）	田子の浦港開港60周年記念事業（富士市 田子の浦港）
11月上旬	熱海おさかなフェスティバル（熱海市 渚親水公園）
11月上旬	清水港マグロまつり「清水・マグロ博2026」（静岡市 清水港）
12月6日（日）・12月25日（金）	冬季熱海上花火大会（熱海市 热海湾）
12月19日（土）	とてあき冬花火大会（伊東市 伊東海岸）
12月27日（日）～12月31日（木）	歳末大売出し（御前崎市 海鮮なぶら市場）
12月中旬～令和9年3月	牡蠣小屋（湖西市 海湖館）
令和9年1月1日（金・祝）	初詣祈願祭（牧之原市 相良海岸）
令和9年1月中旬	第61回伊東オレンジビーチマラソン2027（伊東市 国道135号バイパス）

編集後記

本年も良い年でありますようにお祈り申し上げます。

令和7年度の県外港湾観察（石川県）に同行させていただきました。能登半島地震からまもなく2年が経とうとしていましたが、豪雨災害も重なり移動のバスの中からは、ブルーシートに覆われた家屋等が見受けられ、復興はまだ途上であることを痛感しました。

観察をお引き受けくださった皆様、御参加いただいた皆様には、この場をお借りしてお礼申し上げます。（K.H.）

【港湾局 公式 Instagram】

県内港湾・漁港の魅力、港湾に関わる仕事の魅力などを配信！



フォローお願いします。

当会では、会報誌面充実のため皆様からの港に関する情報やニュース・寄稿をお待ちしています。

関係団体の活動、イベントPRなど…どんな些細な事でも構いません。詳しくは下記連絡先までご連絡ください。

編集・発行 静岡県港湾振興会 TEL: 054-221-3052 FAX: 054-221-2389 E-mail: shizu.kouwan@gmail.com